

## 1 はじめに…「講義実施への経過」について

毎年、「家庭基礎」を履習する生徒にアンケートをとっているひとつの設問に、家族形態がある。今年度のアンケート結果は90%が核家族。私が担当する生徒も78名中72名が核家族であった。

「高齢期の生活」を学習するにあたり、その内容をより身近なものとするため、シニア体験（疑似体験）を行い、高齢者の身体的、心理的な状況を考えてみる。そして、高齢者へインタビューを行い、これまでの体験・経験、高校生へのメッセージなどを問いかける。ほとんどの生徒が自分の祖父母にインタビューしているが、これまで知らなかった祖父母の人生を垣間見、人生の先輩として改めて敬う態度がみられる。日頃接する機会が少ない生徒にとって、この事前学習は高齢者が少し身近な存在となり、高齢者への接し方などを考える契機ともなっている。

さて、これまでは「自助具で生活の幅をひろげる」と題して、自助具を制作されるボランティアの方の話や自助具に触れる体験を交えた講演を行っていたが、今年度は視点を変えて「福祉施設」に焦点をあてることにした。まずは京都総合福祉協会へ相談。認知症が増加してきている昨今、地域の繋がりが大切。認知症への理解と高校生にも声かけなどをして欲しいという思いから「高齢者認知症」をテーマとした講演を実施したいとの回答があった。「認知症高齢者」は、2,025年には3人に1人と言われているそうである。

認知症について医学的見地から「通所介護・介護予防通所介護事業所 向日葵」管理者で看護師資格もある小林かえ氏に、地域の取り組みや認知症高齢者への関わり方については「京都市左京北地域包括支援センター」センター長山本健夫氏に協力依頼し、50分での講演を実施することになった。講演の展開案やレジュメ、アンケート内容等について事前に十分な打ち合わせを行い、より内容の深い講義になるように努めた。

そして、後日、「向日葵」のデイサービスの様子を見学に行くことも含めて高齢者理解への一連の授業展開とした。ここでは、「高齢者認知症」に関する講義内容を中心に報告したいと思う。

## 2 「高齢者認知症」…通所介護・介護予防通所介護事業所と地域包括支援センターとの授業について

### (1) レジュメ

#### 【いつまでも地域で暮らし続けるために】

・「認知症」を知り、自分たちにできることを考えよう。

講師 通所介護・介護予防通所介護事業所向日葵 管理者・看護師 小林 かえ氏  
京都市左京北地域包括支援センター センター長 山本 健夫氏

- 1 認知症とは
- 2 認知症について考える
- 3 地域における認知症高齢者を支える取り組みについて
- 4 その他
- 5 これまで、シニア体験や高齢期の生活について少し学習してきました。その内容と「認知症高齢者」の学びを通して、あなたが考えたことや感想、これからの行動などについて記しましょう。



#### 【講師の方々】

← 将来、介護に係る仕事を希望する生徒を考え、仕事内容と職種を掲載

#### ※ 介護サービスに係わる仕事の内容と職種

仕事の内容	職種
①障害をもつ人のリハビリテーションを支援する。	理学療法士、作業療法士
②高齢者、障害者を訪問して、介護・家事援助を行う。	訪問介護員（ホームヘルパー）
③生活上の困難を抱えている人の相談や助言を行う。	社会福祉士
④高齢者関係の施設やホームヘルパーとしての介護などの生活援助を行う。	介護福祉士
⑤介護保険制度のもとで、ケアプランの作成やサービス事業者との連絡を行う。	ケアマネージャー

(2) 指導計画・講師とともに検討

(ア) ねらい

「認知症高齢者」について知り、生徒自身にできることを考えさせる。

(イ) 評価規準

認知症について知るとともに、このような状態の高齢者を見かけたときに、何か自分の行動へ繋げることができる意識をもつことができる。【関心 意欲 態度】

(ウ) 授業展開

	時間	内 容
導入 (5分)	2分 3分	・本時の内容について説明及びワークシート(No.5)の確認 (竝川) ・挨拶・講師紹介 (小林・山本氏)
展開 (45分)	10分 15分 5分 10分 5分	<p><b>1 認知症について—医学的知見から説明</b> (小林氏)</p> <p><b>2 認知症について考える</b> ・「2本の傘～認知症とそのサポートをする人たちのために～」DVD 視聴 ・認知症高齢者の現状について (山本氏)</p> <p>・「2本の傘」DVD の内容について感想を聞く (竝川・指名 山本氏) →生徒の発言内容によって、コメントを加える (山本氏)</p> <p><b>3 地域における認知症高齢者を支える取り組みについて</b> (山本氏) ・地域包括支援センターの働き ・ADI 国際会議京都大会での認知症当事者の話</p> <p><b>4 質疑応答</b> (竝川・小林・山本氏)</p>
まとめ (5分)	5分	・講義のまとめ ・冊子(「認知症を学び地域で支えよう」) 及びリング(認知症 サポーター)の配付 (竝川) ・アンケート記入 (竝川) ※次時間に回収 ・挨拶



【冊子とリングを手にする生徒】

※ DVD「2本の傘」は、

認知症を患った夫が、雨が降るのを見て買い物に出かけた妻に傘を持って行こうと家を出たが、途中で迷子になり警察に保護されるというストーリーである。

制作は日本作業療法士協会。

※・授業の流れや感想・質問内容については竝川が担当、感想へのコメント等は講師が行うよう設定し、生徒との一体感を持てるよう工夫した。

・授業展開や各持ち時間の目安等を決めておき、授業時間内に完結できるよう確認が必要である。

(エ) アンケート

次は、講師から設問内容にして欲しいと特に依頼された内容である。

1 イ 認知症高齢者を見かけたときに、何か行動を起こすことができますか。( できる できない(できない理由: ) )

講習「いつまでも地域で暮らし続けるために」  
1年 組 番 氏名

1 講義内容について  
ア 今後の生活に役に立つ内容でしたか。  
( はい まあまあ いいえ )  
イ 認知症高齢者を見かけたときに、何か行動を起こすことができますか。  
( できる できない(できない理由: ) )  
2 あなたが特に考えたことや感想等について

-----  
-----



生徒の意見

できる 61名

できない 11名

できない理由

- ・認知症である確証が持てない。間違っただけで、相手に大変失礼となり得るから。
- ・何をすればいいのかわからない。
- ・声をかける勇気が出ないから。

※講師からひと言

声かけができなくても、「何かおかしい」と思えば、警察等へ届け出てくださいね。

(オ) 生徒の質問と講師からの回答

- ・認知症は遺伝しますか。私の祖母が認知症なので、心配しています。  
A: 遺伝ではありません。アルツハイマー病は異常タンパク質が脳内にたまることが原因で、皆さんも同じです。ただ、そうならないように気をつけていくことが大事ですね。
- ・認知症にならないためには、何が大切ですか。  
A: まずは、バランスの良い食事、適切な運動、系統的に物事を考えて実行できること、そして、他人と話をすることですね。最後の2つは、頭を使うことですから刺激になっていいんですよ。

(カ) 生徒の感想

- ・DVDの男性は、妻が雨に濡れたらいけないという適切な判断をして行動に移しているのに、それが結果に結びつかない。認知症の影響がこういう形で出現するのかと思って、切ない気持ちになりました。僕が家族を持った時、認知症に相手または自分のどっちがなっても必ず支え合おうと思います。
- ・私の祖母も認知症なうえ、難病であり、普段から腹が立つことも多かった。できることは自分ですが、結局は二度手間になったり危険があったりと、ただ単に全て手伝うより、何倍も配慮がいる。しかし、厳しい面もあるが、ただ怒る、無視する等ではなく、相手も自分と同じなのだということを改めて意識して、できるだけ思いやり、寄り添えるようにしていきたいと思えました。

3 成果と今後に向けて

認知症当事者の話(新聞記事)のなかで、「認知症になっても新しく作ることができる。わたしのできることを周りが奪わないで」という言葉があった。この言葉の意味を生徒に考えさせ、意見を求めるようにした。今回の講義の中で特に生徒に考え認識させたい内容について、生徒の感想とともに紹介する。

「適切なケア」

- ・認知症の方と接したり、治す手助けをしようと思うと何か大きなことをしなければならないと思ってしまっていたが、適切なケアも治療法であることを頭に入れて、相手の人としての気持ちを尊重することを忘れてはならないと考えた。
- ・認知症の進行はその人の責任ではなくて、私たちがその人は何もできないと決めつけたり、その人の気持ちになって接しないことで進んでいくと知って、もし自分の周りで認知症の人がいたら関わり方をしっかり考えて向き合っていかなければならないと思った。また、普段からコミュニケーションをとって、発症の予防をするのも大切だと思ったので、それを心がけていきたい。

### 「認知症の人にも感情がある」

- ・認知症の人は、冷たくされても気づかないし、傷ついてもすぐに忘れるものだと思っていたが、感情を伴う出来事は忘れないと知って、優しくしてあげようと思った。
- ・認知症の重度の人で、自分の排泄物すら何か分からず、尻に違和感があると思い、触って気持ち悪いからそれを取ろうと、壁に塗るということがあったと聞き、衝撃を受けたが、今回の授業で、それでも認知症でも感じる心があり、人として尊重しなければならないと改めて感じた。

### 「地域で支える」

- ・これから高齢化が更に進んでいく社会において、年金を納めたり、税を納めたりする社会保障による間接的な支援だけではなく、地域との実地で助け合うことが必要だと感じました。皆ができるだけ幸せなようになるべきだと思います。

高校生にとって、認知症はどこか他人事のように思う面も否めない。しかし、今回の講義を受け、生徒「何をすれば良いのか。何かできることはないか。」改めて考える契機になったと思う。

自分の命は大事で自分で守るべきものであるが、加えて、家族や地域の人々に対しても自分ができることをしっかり認識して行動に繋げて欲しいと心から願う。これは全てのことに通じること。

地域包括支援センターとして地域支援に注力している方々とともに授業を取り組めたことは、講義内容が深まるとともに、私自身学ぶことが多かった。打ち合わせなどに多くの時間を費やしたが、それ以上の成果を得ることができ、来年度も継続実施を予定している。



【「向日葵」で説明を受ける生徒】

今回報告した講義内容は、中学校新学習指導要領に「介護疑似体験」が入ってきているので、中学・高等学校としての一連の取り組みとしてもひろげていける内容である。

介護は、決してきれいごとばかりではない。「笑顔で接しましょう」と言われても、実際に介護をしている人がいつもそのような状態でいられるかと問われれば、「No」と答える人も少なくないと思う。だからこそ、家族以外の人々が地域の高齢者との繋がりを少しでももてることのできる世の中になるよう考えていく必要があるのではないかと私は考える。

高齢者に寄り添うことのできる体験学習をこれからも考えていきたいと改めて思う。

